

第 1 6 期 第 3 回 八尾市図書館協議会会議録

平成 21 年 2 月 18 日 (水) 午前 10 時から 12 時 八尾市役所 第 2 委員会室

出席者 (敬称略)

井上 眞澄	(京都橘大学文学部教授)
小西 和夫	(大阪市立中央図書館企画情報担当課長)
柏木 順子	(八尾市議会議員)
西田 尚美	(八尾市議会議員)
新居 佐登子	(八尾市社会教育委員)
森 弘和	(八尾市生涯学習センター学習プラザ運営審議会)
下司 博幸	(八尾市校長会)
川口 紀子	(やお絵本の会)
森田 知香子	(おはなしばすけっと)

職員

藤田 和章	(生涯学習部長)
大谷 進	(八尾図書館長)
鶴田 博子	(山本図書館長)
米田 敏幸	(志紀図書館長)
石田 誠	(八尾図書館長補佐)
岡田 哲弥	(八尾図書館利用サービス係長)
田中 由宏	(八尾図書館資料係長)
佐古田 明奈	(八尾図書館資料係主査)

案件 議事 (1)平成 20 年度事業進捗状況
(2)平成 21 年度事業方針
(3)報告事項

・八尾市図書館建替え計画の現況について

石田補佐 おはようございます。定刻となりましたので、ただいまより第16期第3回八尾市図書館協議会を開始いたします。開会にあたりまして、生涯学習部長の藤田よりご挨拶を申し上げます。

藤田部長 生涯学習部長挨拶（略）

石田補佐 有難うございました。議事に入ります前に、図書館協議会資料のご確認をお願いいたします。

それでは、これより議事に入らせていただきたく存じますので、井上会長、よろしくをお願いいたします。

井上会長 皆様おはようございます。それでは早速、議事に入らせていただきます。

議題（1）平成20年度事業の進捗状況について

議題（2）平成21年度事業予定につきまして

及び報告事項

につきまして、事務局から一括して説明していただきます。なお、質問がございましたら、説明が終わりました後でお受けしますのでよろしくをお願いいたします。

それでは、事務局から説明をお願いします。

米田館長 それではお手元の資料に基づきまして、平成20年度の事業につき、12月末現在の進捗状況をご報告させていただきます。

図書館利用状況・祝日開館利用状況・夜間開館利用状況説明（略）

岡田係長 続きまして、私の方から説明させていただきます。

障害者宅配サービス状況・図書予約状況説明（略）

鶴田館長 それでは続きまして、平成21年度事業予定につきまして説明いたします。

平成21年度事業予定説明（略）

大谷館長 最後に、報告といたしまして、八尾図書館の建替え計画につきましてご説明させていただきます。

八尾図書館の老朽化に伴う建替え計画につきましては、今年度、「庁舎周辺公共施設整備調査

特別委員会」において、図書館を始めとする庁舎近辺の公共施設の更新についてご検討いただいております。現在のところ、八尾図書館の建替え場所としましては教育サポートセンター跡地となっております。

これまでの取り組みにつき、改めて経過を申し上げますと、18年度から建替え計画に取り掛かり、公共施設機能更新調査を実施し、庁内での検討を行ってまいりました。19年度には市民を含めた市民検討会議、ワーキング会議で機能等の検討を行い、この「八尾市公共施設機能更新検討報告書」に基づいて、20年度には市議会特別委員会でご協議を頂いたところでございます。

特別委員会に提出されました八尾図書館建設場所の配置案は3案ございました。第1案は、「教育サポートセンター跡地に八尾図書館単独施設、商工会議所跡地には青少年センター・教育サポートセンター等5施設の配置」、第2案が「教育センター跡地に八尾図書館単独施設、商工会議所跡地に青少年センター・教育サポートセンター等5施設の配置」です。そして第3案は「教育センター跡地に八尾図書館と教育サポートセンター5施設等の複合施設」という配置案でございました。

特別委員会と並行いたしまして、八尾商工会議所の移転建替えや商工業の活性化によるまちづくりについて、商工会議所と市は協議を進めてまいりました。その結果、教育センターの敷地が八尾市の商工業振興支援の拠点として最適であると、本年2月5日に基本合意に達し、教育センターの敷地建物と商工会議所の敷地建物との等価交換によりまして、（教育センター跡地が）商工会議所の移転建替え場所として、両者間でまとまったところでございます。この決定により、「八尾図書館は教育サポートセンター跡地、商工会議所跡地には図書館以外の5施設複合施設」という現在の配置案となっているところです。

しかし、教育サポートセンター跡地での図書館建替え計画では、交通アクセス等から適地ではないという市民さんからの声や、特別委員会での指摘もございまして、今後、市の担当部局におきましては、施設の利便性の向上や、施設の機能連携によるサービスの向上等について、現状の配置案を基に検証していくという流れになっているところでございます。

以上、誠に簡単ではございますけれども、建替え状況についてのご報告とさせていただきます。

井上会長 事務局よりの報告が終わりましたが、何か質問がございましたらどうぞ。

西田委員 資料によりますと、利用者数の数字が減っていますね。利用者数が減少しているのに貸出点数が増えています。これは同じ方が複数の図書を借りられているためと理解してよろしいでしょうか。

米田館長 登録者数は減少していますが、利用者数自体は実質、増加しています。リピーターが増えているとも考えられますので、必ずしも利用者数そのものが減っている訳ではなく、実利用者数として区別で児童等は減少している状況です。個人レベルで見ますと、貸出点数や実利用者数が減少している訳ではありませんので。

西田委員 館別の実利用者数というのが、数字で見ると減っているのですが、今のご説明がちょっと難しかったんですけれども、実際、減っているのは減っているという理解でいいんですよね。

大谷館長 説明がややこしくて申し訳ありません。利用者数と貸出点数の関係ですが、まず「実利用者数」というのは「図書館に登録されている方の内、図書館を利用された方の数」でございます。児童の実利用者数については確かに減少しています。これは少子化がひとつの要因になっていると思われれます。児童自体の人口が減っておりますのでね。ただ、数字としては現れにくいですが、リピーターさんが多いんです。ですから貸出点数は増えています。また、リピーターさんの来られる回数・頻度が増えているということもございます。今までより頻回に来館される方が増えたと、そういった数字の表れであると、私どもはこのように理解しております。

西田委員 リピーターが多いということは、借りられる方は何度も図書館を利用される訳ですよ。利用されない方に対しては、どのような働きかけをなさっていますか。

少子化の影響で児童が減少しているというお話もありましたけれども、本を読む人と全く読まない人が、分かれてきている、二極化しているのではないかと、数字からもそう見えるんですが、その辺りについてどのような啓発をされているのでしょうか。

特に、児童については本を読むことを習慣づけていくことが大事だと言われますけれども、啓発活動であるとか、こういった取り組みをされているのかについて教えてください。

米田館長 平成 20 年 12 月に、市内の自治振興委員会を通じまして全戸回覧を行い、PR いたしました。その結果、チラシを見て新規で登録に来られた方も多数おられました。そういった努力はしております。

また、児童への啓発として学校園との連携も進めております。特に学校貸出・団体貸出を有効に活用し、一層努力してまいります。

西田委員 チラシによる啓発や、学校園との連携に取り組んでいただいているということです

ね。児童については、地域からの働きかけもありますし。

ここで平成 21 年度の事業予定を見ますと、「全ての人に生涯にわたるサービスの提供」ということで、いろいろな取り組みを並べていただいているんですが、図書館としての工夫や、興味を引くような催し等についてはどのような取り組みをされていますか。

米田館長 基本的には、各図書館でのおはなし会や読み聞かせ、紙芝居まつり等のイベントを例年行っております。特に今年度は「八尾図書館開館 30 周年」を記念して様々な企画を各館で行っています。資料にありますように、八尾図書館では展示会や講演会を実施し、山本図書館・志紀図書館ではフロアコンサートを行いました。特に志紀では「市民によるフロアコンサート」として市民参加で実施し、好評をいただきました。

西田委員 大変いろいろしていただいていますので、その辺ももっと啓発していただきたいと思います。

先ほど庁舎周辺公共施設整備調査特別委員会の話も出ましたけれど、先日、重松議員と永田議員が千代田区のビジネス支援図書館へ視察に行かれたということで、お話を聞かせていただきました。ここは夜 10 時まで開館していて、マスコミにも取り上げられたり様々な催しもされていたりと、非常に有名なところですが、町並みについてだとか「ここは何がおいしい」といった地域の情報だとかを、図書館としても集める・調べるといった感じで、いろいろな発想で催しをされていると聞きました。そういうニーズに対応できる柔軟な発想も大事なかなと思いますし、地域情報という点については、ボランティア活動をしていただいている皆さんの意見とか声というのも、現場を良く知っているので、すごく役に立つと思います。その辺も取り入れながら、市民が今何を知りたいかとか、催しを工夫していったらいかがでしょうか。

その点では、このフロアコンサートなんかもすごくいいと思いますね。以前、志紀図書館へ視察に伺ったときにも、折り紙の講座なんかされていましたし、年代別・地域別に色々なニーズがあると思いますので、それを汲み上げるということと、それに対する啓発ということでね、利用者数を増やしていただければと思います。

今、特別委員会での経緯を説明していただいたんですけれども、委員会としてもこれから実際に進めていく中で、図書館としては、どのような思いを持っておられるのか、お聞かせください。

大谷館長 図書館の建替えについてご質問いただきました。これについては、どんな建物・設備がというよりも、まず立地が重要であると思います。多くの方に利用していただくためにはですね。現在の図書館は、市役所の目の前にあり、駅にも近く非常に便利な場所にあります。ま

ず、安全に利用していただける場所というのが一番にあって、その上で市民の方・利用者の方のニーズをキャッチしていく、こういったサービスを望んでおられるのかを汲み取っていくという順番で検討していく必要があるかと思えます。

平成 22 年度までの図書館サービス計画に沿って実施していく中でも、利用者の声を聞きながら、今後どういうサービスを展開していくか、改めて作り上げていきたいと考えております。

西田委員 市民の皆さんの目線に立つというのは一番大事な視点かと思えます。立地の面で、教育サポートセンターの跡地では不便だと私も思いますし、ここであまり個人的な意見を言う問題になるかもしれませんが、本当に市民の皆さんの声を聞きながらそれをまとめていただきたいし、図書館としてももっと声を上げていてもらいたいと思うんです。かなり以前から老朽化で危ないと言われ続けていながら、今まで来てしまったという状況もありますし、問題があるとおっしゃったのをもっと具体化して、早急に声を届けていただきたいと思えます。

まして、建替えまで閉館しないといけなかったり、一時移転しないといけなかったり、そういった場合の対応なども、今の時点でしっかりまとめておいていただきたいです。図書館としてはどうするのか、といったプランを、具体的にまとめていただきたいと要望しておきます。

井上会長 他の方、ご意見ございましたらどうぞ。

柏木委員 西田委員さんとよく似た部分もあるんですが、図書館利用状況等という所を見ましても、登録者が減で利用者が増、ということはリピーターが、という説明を頂きましたが、今回の資料の中では 3 館と移動図書館ということで数字が書かれていまして、地域ごとの利用詳細が分らないんですが、私自身この図書館協議会に何回か入らせていただいて、ずっと言い続けているんですけど、やはりちょっと二極化していると感じます。

利用できない所と利用しやすい所との関係性が、ずっと図書館行政をやって来られて本当にこれで良いように思われているのかどうか。

振り返って考えますと、昭和 5 0 年代に八尾図書館が出来て、ようやく平成 10 年頃に 3 館体制が敷かれたかと思うんですが、まだまだいろんな地域の中で格差を感じます。

私たちは竹淵に住んでいるから、各館でいろんな行事があるのを見てたら羨ましいなと思えますし、そこら辺の格差みたいなのをずーっと感じるんですが、図書館行政をやられている立場から悩んではおられると思いますが、そうした悩ましい話が少しくらい出て来ないかなと思えますがそこら辺りいかがでしょうか。

大谷館長 今、柏木委員さんが仰ったように、八尾は非常に広い地域でございますので、3館と移動図書館でサービスをさせていただいているところであります。ただ、地域から見た利用状況の数字の差が明らかに出ているのは事実でありまして、我々と致しましても出来るだけ市内の地域に格差を無くすような方向でいろんな対策を講じております。一番大きいのは、3館だけではなく4館体制を最終的には目指しており、4館めが出来ればそこを拠点として地域、地域にもっとサービスの展開を広めていきたいという目標を持っております。

しかし現状で見ますと3館と移動図書館しかございませんから、出来るだけこういう体制の中でも格差を縮められる様、また小さい時から書物に親しんでいただける様に乳幼児健診時にパンフ等の配布を行うブックスタート運動などを行っております。このように図書館としても支援できるところから、図書に親しんでいけるような環境を作っていこうということで、そういう活動もしております。

それから、保育所なり学校なりに年間貸出を、先ほどお話が出ましたように団体貸出をして、子供のときから書物に親しむ環境づくりも図書館としてやっております。さらに、おはなし会等を通じて、学校の先生との話合いの元で、より良い読書環境づくりを進めていこうということで、司書の派遣などもさせていただいております。

また、児童・生徒等が市立病院へ入院した時も、引き続いて読書と親しんでいただくために、月に1度、院内学級に司書を派遣しておはなし会等を実施する活動もしておりますし、各図書館での行事、おはなし会を始め、特に子供をターゲットにしました遊びの行事を行うことによって、本に興味を持っていただく、そういう環境作りを現在行っております。

ただ、今、仰ったように、中々、我々の取り組みがすぐ数字に跳ね返ってきませんが、地道に継続することが大事ではないかと思っております。目標としては4館体制を進めてそういうサービス展開を続けていきたいと考えております。

地域的に申し上げますと東西南北でありますと南西側の方に館として必要であろうかなとデータに基づいてもそのような結果が出ておりますので、そちらを重点的に整備する必要があると思っております。

柏木委員 財源の無い時代に入ってしまったから、苦しいというのはよく分るんですが、八尾市と同等でよく私たちも比較する茨木市27万都市ですが、ここは確か9館か11館か数字は忘れましたが、八尾市は4館です。財源が無いというところで厳しいとは思いますが、現在あるいろんな施設を利用してでも地域で図書館体制を整備することはできないでしょうか。青少年会館ですとか児童室ですとか、何かそういうので本を動かして行くとか、既存の枠組みの中だけじゃなく、あらゆる資源を利用しながらより近くに本がある環境をつくれたらいいと思います。

私の孫が志紀に居るんですが、「ちょっと図書館に言ってくるわ」と本当にツツカケで行ける状態で、よろしいんですね。竹淵に住んでいるとそうは行きません、移動図書館が来るまで待っていないければなりませんし、やっぱり出来るだけ近い所で、格差の無い形で図書館行政が「すべての人に生涯に渡るサービスの提供」をできるように、目標項目を挙げられてるんですから、27万5千の人達の視点で頑張っていたきたいなと思います。

ずっと言い続けていますんで、「また言ってるわ」で終わらないようにしておいて下さい。その辺は検討していくという説明もありましたので、それともう1点。障害者宅配サービス状況ですが、少しずつ増えているとのことですが、障害の程度区分によって、行く行かないを判断されているんですか、それともニーズがあれば行かれるということですか。手帳を所持していれば対象になるのか、その辺の仕組みを教えてくださいなと思います。

石田補佐 資料の4ページを見ていただきたいんですが、まず、障害をお持ちの方につきましては、手帳をお持ちの1級・2級・3級の方からの希望があれば宅配サービスの実施させていただいております。介護を要する状態の方に対しましては、介護度というのがございまして、要介護1、2、3と区分を設けまして宅配サービスを実施させていただいております。先ほど説明しましたとおり、こういう区分以外に診断書等を提出していただいて、例えば一時的なケガ等で図書館に来ることが出来ない方など、宅配サービスの要望に添えるよう柔軟に対応させて頂いております。

柏木委員 障害の1～3級は重度というのは分りますが、要介護1・2・3とありますが要介護4・5についても対象になるんですね。

石田補佐 資料4ページの要介護1・2・3と書いておりますが、これは介護認定の要介護1～5までとは連動してなくて申し訳ございません。要介護の度数の高いものから1・2・3と記載させていただいております。

柏木委員 違いますよね、要介護の度数の高いのは5・4・3と逆になるでしょう。

石田補佐 介護保険法上の要介護度1から5までございまして、ご指摘いただいておりますように要介護5が一番介護が必要な度数となっております。図書館の基準で、介護保険で言いますところの要介護5に当たる方を要介護1と言う形で表現させていただいております、誤解を与える表現で申し訳ございません。

柏木委員 誤解を招くようなところは訂正しておいていただきたいと思います。知的障害の人達も、AとかB1とか等級あるんですが、その人たちも要請があれば対象と思ってよろしいですね。

大谷館長 宅配サービスは基本的には障害者手帳等をお持ちの方ということでございますが、図書館としましても出来るだけご利用いただく趣旨からも弾力的に取り扱いしていこうということで、直接、面接をさせていただいて、代わりに図書館に来ていただく方もおられない等、事情もお聞きしまして判断させていただいております。基本的には障害者手帳所持者とか要介護の方が基本とさせていただきますが、状況に応じて判断させていただくという弾力的な取り扱いをしているのが現状でございます。

柏木委員 最後に、図書館建替えについて、私自身も気になるところなんですけど、特別委員会の中であまりオープンにはならなかったということですが、出来るだけコストの計算とかそういうものも含めて、どうしても今の八尾図書館では対応できないということも誰もが分かることですので、いい形で積極的に議論していただきたいなと思います。特別委員会がありますのでこれ以上のことは申しませんがよろしく願いいたします。

井上会長 他の委員さんどうぞ。

小西委員 WEB予約を始められて、順調に予約数が伸びているというご報告があったと思います。これを始めるときに、井上会長などからも少し懸念が出されたと思うんですが、かなり急激な予約件数の伸びで、それに伴って朝一番の現物抜き取りの作業時間の確保について、体制を工夫して対処されるとお聞きしました。実際、段々と月々伸びてきている中で、業務遂行上、市民との対応等そういうところで何か問題点なり課題なり出てきているのか、いないのか、そのあたりの実情をお聞かせいただきたいと思います。

岡田係長 インターネット予約を3月に開始しまして、井上委員ご指摘のように私たちも当初心配しておりましたが、各館4人の複数担当制で朝一番の本の抜き取りを実施しております。

1日2回、11時と15時に本が確保出来たというメールが予約された市民の方に行くんですが、朝一番に各4人が協力して本の抜き取りをし、また14時に4人が抜き取りをするという体制で行っております。朝は4人が本の抜き取りに取り掛かるため、図書の整理につきまし

では、この4月から午前中のみ勤務のアルバイトを山本図書館2名、八尾、志紀につきましては各1名を配備いたしまして、残りの者とで配架を行うという体制で、前日までに予約を受けた分につきましては、何とか11時までに間に合うように本を提供できているという状況で、現時点では業務上の滞りは無いと見ております。

小西委員 ありがとうございます。大阪府で実施した時から見ても、恐らくもう少し件数は増えるのではないかと思います。今、私共の方でも、WEB予約の件数がカードなりの予約件数を上回っている。館内のOPACからでも出来るんですが、そちらの件数の方がはるかに上回るという状況になってきています。今後、本当に2倍3倍ということも想定されるので再来年度に予算も含めてアルバイトとかそういった措置がなされるのかなと思いますけれど、市民にとっては便利ですが、それを支える側では裏方的作業が増えるなど実感してますし、そこが滞ると折角のサービスが市民との間でトラブルの元になる場合もあります。市民の期待を裏切るといったことが無いように万全の体制でやっていただけたらと思っております。

井上会長 はい、他にあればどうぞ。

森田委員 先程からも説明のありましたように夜間開館ですとか、ネットでの予約、障害者へのサービスなど八尾市図書館サービス計画に基づいて色々実現させていただいていると思います。ボランティアとの連携という面につきまして、色々イベントをするときにもご協力いただいていると思うんですが、ひとつご要望したいことがございます。

ボランティアを育てていくというんですか、連携は取れてきていると思うんですが、育てていくという面で、もう少し講座ですとか、ボランティアを集めるというところでも、協力体制が取れたらいいなと思うことが多々あります。

私たち自身も仲間に入りませんかと募集を行っておりますが、出来上がったグループの中に一人入ってくるというのは、なかなか難しい面もあります。ですから図書館がこういうボランティアを募集するための講座みたいなものを開いていただいて、その中から、入りたい人には「こういうグループがあります」「あんなグループがあります」というような紹介する機会を作っていただけたらなと思うんですが、いかがでしょうか。

大谷館長 ボランティアさんとの協働と言いますか、これからの図書館作りは図書館職員とボランティアさんとの協働の図書館作りが求められてきていると思います。

今、現にボランティアさんに八尾を始め3館とも係わっていただいております、八尾でしたら

30年来係わってきてもらっております。具体的な行事で言いますと、単独のおはなし会をやっていただいたりイベントをしていただいたりということもございます。

さらに今後、図書館といたしましても、もっとボランティアさんとの協働を進めていくためにどうしなければならないかと思うんですが、我々としてはできるだけ個人若しくは団体さん共、受け入れられるような形で、今後検討していく必要があると思っております。

さしあたってこの2月、ボランティア団体さんのほうで実は発足した会が一つございます。それらも今後話をしながら、今まではおはなし会とか子ども行事が主でありましたが、もっと深く、例えば図書館の本の整理をしたり、館内の案内をしたりと、具体的な話がございましたら今後受け入れていけるような内部の態勢づくりを進めたいと思っております。

ボランティアさんの育成講座といいますか、今後は受け入れていく態勢を作っていかなければならないと、3館とも協議しながら進めて行きたいと思っております。

森田委員　そういう機会を作っていただけると有難いと思います。もう一つ、団体貸出カードの利用についてなんですが、ボランティアグループの間で「どうなってんの、このカード」って、問題がありまして「土日は貸出出来ない」とか色んな制約があって、それが一貫してないというか分かりづらいところがあるんです、どうなんでしょうか。

岡田係長　団体カードでの貸出の件であります、基本的には火曜日と日曜日につきましては職員が半数出勤体制という関係で、児童担当がいない場合もございまして、その時に十分なサービスが出来ないということで、現在のところ貸出をしていないのが現状です。また土曜日につきましては、行事等が重なりまして十分なサービスが出来ない等を勘案いたしまして、原則的に水・木・金曜日で対応させていただいております。ご指摘の通り、土曜日・日曜日についても今後、間口を広げていきまして出来る限り対応させていただきたいと考えております。詳しくは団体貸出の利用案内が各館にございますので児童担当などに相談していただき、配布要綱等ございますのでご覧いただきたいと思っております。

森田委員　今、たぶん火曜日と日曜日は職員の方が少ないので本の貸出サービスが出来ないというのは、ものすごく沢山の量を借りられる場合、それこそ100冊まで貸していただけるので、50冊とか60冊とか纏めてたくさん借りられる場合に「どんな本を選んだらいいか」とかの相談を受けられないとか、またカウンターに一遍に何十冊も持って来られると、それでなくても職員が少ないし、利用者が列を成して並ぶような状況に陥るといったことを考えられてのことだと思うんですけど、こちらでもう選んでいて、5冊、3冊といった普通の利用者と変わらないよ

うな利用しかしないにも拘らず、「今日は団体貸出カードは使えません」と拒否されてしまうと
いった状況をもう少し考えていただけたらと思います。

岡田係長 日・火曜日に、ご自分で本を10冊程度選ばれてということではありますが、団体
貸出の利用者の方などで、団体貸出が出来ない日曜日や土曜日などに各種行事をされるボランテ
ィアさんがいらっしゃいます。その日に10冊とか20冊程度の少量であってかつ自ら選んでい
ただけるといふことであれば、団体貸出ができるよう間口を広げていきたいと考えております。
ご指摘ありがとうございました。

森田委員 ありがとうございます。よろしく願い致します。

井上会長 団体貸出のことについて、基本的なことが分かってないんですが、1団体最大10
0冊までの貸出ですか。

岡田係長 団体貸出につきましては、1団体1ヶ月100冊まで貸出が出来ます。団体につき
ましてはさまざまで、読書会、ボランティア団体、おはなし会、読書サークル、若しくは学校の
学年単位で例えば「八尾小学校5年生」といった形で100冊貸出しているものと、また1年
間貸出をしている学校貸出というものがございます。こちらは1年間、生徒数500人であれ
ば500冊まで貸出が出来るといった2種類の貸出サービスを行っております。

井上会長 ほかに何かご意見ございませんか。

川口委員 夜間開館が多くなって、周囲の方が大変喜んでおられて有り難いと言っているん
ですが、常々思っていることがありまして、きっと無理なお願いとは思いますが、月曜日は3館
お休みということは仕方のないことなんでしょうか。月曜日が定休日という方が何人かおられま
して、「月曜日がお休みというのはどうにかならないか」とよく聞かれるんです。3館のうち1
館でも午前中だけでもオープンしていただけないかと思うんです。子どもたちもハッピーマンデ
ーも増えて、月曜日の休みが多くて調べものがしたいというときに、3館とも休みということも
あって隣の市に行くという事態になったこともあったんです。そういうのを常々思っているん
ですが、無理なんでしょうねといつも言っているんです。

せめて祭日と重なったときの月曜日は開けられるよう目標にしておられるかもと思うん
ですが、なるべく開けていただきたいのと、また3館のうち1館開けていただけたらうれしいなと

常々思っているんですがいかがでしょうか。

大谷館長 月曜日に 1 館どこか開けたらというお話ではありますが、ご承知のように貸出についてはすべてコンピュータによりオンラインシステムで貸出業務を行っておりそれのもとになるのが八尾図書館で行っております。現在は 3 館とも同じ曜日に休んでおりますので問題ないんですが、休みが異なることによって万が一コンピュータにトラブルが生じたときに八尾のときはいいんですが、山本・志紀のときに大きな問題があるということがございます。コンピュータは全て完全ということで捉えられやすいんですが、日々ちょっとしたトラブルも事実あることはあります。

それともう一つは、3 館ございますが他の館が休むということによってお客さんが集中するという問題であります。キャパの問題もあり、普段からかなり山本・志紀はたくさん利用いただいて混雑が多い。そういう中でさらに集中しますと、やはり人の整理という問題が出てまいります。我々も踏み切れないところがそこがございます。その問題を解決しない限り利用者にかえてご迷惑をお掛けすることになりますので、踏み切っていないという現状であります。

川口委員 そうしましたら、祭日の日にちょっとでも開館していただくことをお願いしたいと思います。

大谷館長 先程の答弁に付け加えて申し上げますと、我々としても出来るだけ図書館をご利用していただけるということで、色々考えていかなければならないのですが、やはり時間を制限すると今の多様化されている社会ですので利用される方と利用されない方に色分けしてしまうようなことになっては具合が悪いということで、現在 I C の時代ですのでできるだけ時間外であっても八尾図書館を利用できるようにとインターネットを導入しています。時間外 2 4 時間どこからでも検索できて予約も出来るという形を導入させていただいております。今後そういうことでご利用いただくのも一つと考えております。

また月曜日の開館につきましても、今後そのような形で検討していかなければならないし、我々としては 4 館体制を目指しておりますのでそこに照準を合わせてその時期に出来ればそのような形に持って行きたいと思っております。

新居委員 先程から図書館の建替えの話がでているんですが、柏木委員と同じ竹淵からよせていただいているんですが、竹淵の方は「あいあいバス」も無くなっているんです。この前、田中市長とタウンミーティングしたんですが、バスを復活してほしいという話が出たんですが予算が

無いということだったんです。それやったら皆のその時の声は、「同じように税金収めているのに予算が無いからといって竹濑は切られるのか」という話があったんです。先ほども格差の無いようにとおっしゃってましたが、移動図書館はあってもイベントや行事は無いんです。この資料にありますように色々な企画をされていますが、手づくり遊びとかを学校の空き教室等を利用していただいて、何とか工夫していただけないかと思いますが、いかがでしょうか。

藤田部長 柏木委員さんの意見と関連しますが、公共施設の有効活用もこれから必要かと考えています。たとえば去年は「青少年会館に団体貸出を行って盛り上げては」とご提案いただいてやりかけていますので、今後いろんな形で公共施設を団体貸出等へどうもっていくかが大きな課題と思います。

それから先ほど大谷館長からも申し上げましたように、4館体制について基本的には南西部に必要であると要望しているんですが、4館体制であれば4ブロックで南西部をうまくカバーしていけるんですが、これもやはり一番問題なのが財政問題です。今後、法人税の落ち込みが見込まれる中で、市の予算パイというのが自ずと限られてくる、むしろ縮小されてくると思います。その中でどれだけ図書館サービスの財源を確保するかが大きな鍵なので必死に頑張りたいのですが、今でも管理運営費が3館で3億6千万円かかっているんです。そこへもう1館というと、仮定で館1億ぐらいの運営費と見た場合、ものすごい予算となりますが、これが果たしてどうなんかなと。

だとすると、南西部に図書館的機能といいますか、レファレンス機能は必要ですので人はいるだろうと。本を置くだけなら図書館ではないんで、そういった図書館的機能を含めた施設対応も必要かなと個人的には思っています。このようなことを言えば、お叱りをうけるかもしれませんが、財政状況を見たとき、現実的にやっていくのであれば、また着実に実現させていくのであればそういう方法も考えられると思います。

また、4ブロックに持っていった場合、4図書館が同じように平均化したサービスではあかんやると、地域のブロックに応じた特化的なサービスをしなければならないし、山本であれば山本の地域事情に応じた暮らしに密着したもので市民にサービスできるもの、そうしたものを目指すべきかなと思います。そういった問題も図書館サービス計画で十分議論されると思いますので、いろんな意見を頂きながらやっていきたいと思います。

下司委員 先程からの委員さんからの指摘にもありますように、子ども達に豊かな心、最近では学力との関係も言われておりますし、そういった意味で出来るだけ学校の中での図書環境を充実させていく必要があるかと思えます。それと共に、子ども達が図書を手取る、あるいは読む

機会を増やしていこうということで、学校での取り組みとして「朝の読書」とか学校図書館のサポーターさんに今来ていただいていますので、各クラス順番に読み聞かせに入っていたり、図書時間にいらしてもらったりとか、一方で読書の魅力といったものを、読書週間とかをきっかけに啓発しています。

先ほどから出てますような団体貸出あるいは移動図書館といったものは本校でも利用させていただいていますが、そういった意味で今後とも移動図書館の図書の質的な充実だとか、学校貸出分につきましても内容の充実につきまして、今後とも非常に予算状況は厳しい中ですがお願いします。子ども達は今、読みたい本というのは口コミで広がって行くものがあったりとか、あるいは学校で出会った本をシリーズで読んでみたいとか、そういったニーズも出てきたりしますので、その辺りも把握しながら充実に努めていただけたらと思います。特に答弁は求めておりませんが宜しくお願いします。

井上会長 答弁はよろしいですか。

下司委員 はい。

森委員 先ほどから出来るだけ図書館利用の格差を無くすようにとされているんですが、難しいし、予算の伴うことだとは分っているんですが、実際、コミセンが10地区にあるんですが、私は以前大正にいた訳ですがその時に「ここにも図書はあるよ」とか「夏休みに子供を勉強さすのであればここに連れて来ればどう」と言われて、行けば成程図書はありました。茨木市なんかはそういうコミセンを分館という形で利用しているように聞いているんですが、それは人が伴うんですね。1人雇ったら大体年間一千万円かかるんですね。10人で1億ですよ。先ほど来言われている1つの館の増設さえ出来ない状態の中でこれは不可能だと思いますが、もしも少予算でそういう施設を利用して、そして老人層が地域のコミセンに本を借りに行き読んで読むようにして貰えれば助かるんじゃないかと思ったりはするんです。これは不可能なことを可能にする提案になればいいと思いますけれども、べつに取り立てて今すぐにと言ったことではありません。

現実には削られる一方の予算ですから、そんな少ない予算の中で読者層のニーズを掘り起こして広げられていると言う現在の取り組みということに対しては頭の下がる思いです。

ただコンピュータを利用して予約できるということになりますと、「予約できた」「はい」と渡したら終わりと、手近な駅のポストに掘り込んだらお終いと、本はその人は読めますが、本と人が出会う場としての機能を図書館は持っていると思うんです。これは是非大切にしてほしいです。顔と顔を付き合わせることでよってそこに人間の温かみというのが出て来ると思うんです。

機械はそれをしてくれませんか。やはり本を探しに来るのはそういう対面ですね、その本を持っていた人に「面白かった」と聞いたら「よかった」と、それなら「読んでみようか」となる訳です。そういう風なことを図書館は機能として持っていると思いますんで、それを是非忘れずに今後とも限られた中でいろんな取り組みをされている訳ですから、それをしていただけたらと思います。しんどいと思いますがよろしくお願いします。

大谷館長 ありがとうございます。委員ご指摘のようにITがいくら進んでも機械は機械、人の交流が大切だということを図書館は今後も自覚していく必要があるのではないかと考えております。

最初にご指摘いただきましたコミセンの関係なんですが、八尾は10箇所ございまして、そこを地域の図書館としてやっておられる他市もございまして。本市も出来れば一番いいんですが、資料費の予算なんか年々減少している状況で、3館でやって行くのが今のところ精一杯かなという環境もございまして。また、以前コミセンが出来たときに自主的に図書室を設けて地域の図書館としてやって行こうという運びで進んだこともあったようですが、運営につきましても地域の人にやっていただくということでスタートした経過はあるらしいんですが、続かなかったということで、現在廃止になっている所が多くございまして。地域で独自に寄付等を集めて自分達の図書館として運営されている所もございまして。地域によって温度差もございまして実際に機能しているところもございまして。公費は入れずに地域独自に運営され、自分たちで交流されているところです。そういった地域を見習いながら、今後はそういう形が1つでも増やしていけるような形で、我々としても研究してみたいなとこのように考えております。

井上会長 まだ3月議会が開会されてないと思いますので、新年度予算の内示状況等は公表できない段階かも分かりませんが、新年度の予算編成方針等で例えばマイナス何パーセントのシーリングとかそういう状況が八尾市では実際にかかっているのかということをお教えいただきたい。

それから、私はまだ八尾市の状況が把握できていなくて申し訳ないんですが、ブックスタートについて伺いたい。保健センターでの4ヶ月検診及び1歳6ヶ月検診のときに職員の方、或いはボランティアの方が行かれて、読み聞かせ等の実演を、検診を受けられた親子の方にやっておられるのかどうか、その辺の状況をお願いします。もし職員の実演が無理でも、パンフレットの方を配布しているとのことでありましたが、特に読み聞かせについては非常に図書館でユニークなパンフレットを作っておられますので、ブックスタートで今の財政状況で実際に絵本を2冊あげるとするのは難しいでしょうが、絵本をあげなくても、先ほども西田委員さん等からご指摘のありました乳幼児サービスの充実という意味では重要だと思います。それから30周年記念誌

を作成するというのですが、いつごろ発行されるのかと、障害者サービスで障害者 1・2・3 級、要介護 5・4・3 の対象者について、八尾市全体の人数を図書館で把握されておられたら教えていただきますようお願いいたします。

大谷館長 会長から 4 点ほどお話を頂きましたが、一点目の来年度の予算編成方針であります。基本的には 5 % のマイナスシーリングがかけられております。従って、図書館の予算についても一番大きなダメージを受けておりますのは資料の購入費でございます。こちらの方で大きな額が減額となっております。

次にブックスタートの件であります。本市の場合は直接担当しておりますのが、健康福祉部の保健推進課というところでして、検診時の絵本 1 冊を支給しているところでございます。そのときの読み聞かせでございますが、保育所の職員が直接出向いて読み聞かせをさせていただいております。図書館としまして、これから絵本と親しんでいただくためのパンフレットを支給させていただいている状況であります。

それから 30 周年の記念誌でございますが、以前、こちらの協議会でお話を頂きまして、今現在進めておるところでございます。出来上がり次第、委員の方々に配付させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それから障害者数でございますが、申し訳ございません、今手元に資料を持ち合わせておりません。また、後日調べてご報告させていただきたいと思っております。

井上会長 (回答は) 結構です。それから資料の「職員体制の充実」ですが、55 人体制ですと来ておられたと思うんですが、54 人に減っていますね。1 名減というのは、正規職員でしょうか、嘱託員でしょうか。

大谷館長 これは再雇用職員が昨年度末に退職した後、不補充となったため 1 名減となったもので行政職員であります。今現在補充無しであります。人事当局には補充をお願いしているところですが、年度途中では中々そういう訳にもいきませんので、来年度の人事要望の中には入れさせていただいたところあります。

井上会長 八尾市で使用されているコンピュータシステムは、NEC のリーブルでしたでしょうか。また、その更新時期はいつ頃でしょうか。

大谷館長 昨年 3 月にインターネット予約導入も含めて更新させていただきました。前回

更新時から6～7年経過しており、機能の老朽化等も有りまして、NECのシステムを更新いたしました。

井上会長 　いつ頃からか知りませんが、リーブルを導入している所では予約カードが必要ないということで廃止している図書館が多いんです。未所蔵の資料だけ予約カードを出してもらおうと、こういうシステムに今、変更になっていると思うんです。そうしますと予約カードの処理が有りませんので随分職員が楽になると思うんですが、その辺のことは検討されておられるんですか。

岡田係長 　OPACなど利用者端末を利用しての予約システムのことかと思いますが、その場合予約カードを起こさなくてもペーパーレスで予約が出来る訳ですが、現時点ではインターネット予約を20年3月に始めるということで、予約件数がかかなりの量、予想されましたので導入を見送りました。本来ならば、利用者端末にも予約システムを入れることでペーパーレス化でき、未所蔵分についてのみの予約カード作成でよくなるんですが、更新の時点では、どれだけインターネット予約の件数が増えるか分からない状況でしたので、今回は見送りの判断をさせていただきました。次の更新時期には、館内にある利用者端末からの予約が出来るようにと考えております。

井上会長 　他にご意見ございませんか

森田委員 　30周年の記念冊子を作られているということなんですが、資料を見ておりましたら「八尾市立図書館20年の歩み」という冊子が出てまいりました。見てみたら表とか数字とかが多いんです。去年、志紀図書館が開館10周年で出された冊子は、市民の声でありますとか文字ばかりの冊子なんです。今度の30周年の冊子はどのような形になっているんでしょうか、教えていただけますでしょうか。

石田補佐 　只今ご指摘ありました「八尾市立図書館20年の歩み」についてですが、こちらを作りましてからも、統計的なデータは毎年保存しております。今度の30周年記念冊子ですが、第1回の図書館協議会で説明させていただきましたとおり、予算の無い中で何とか形にできるものということを目指して、現時点で進めておりますが、「八尾市立図書館20年の歩み」をベースにして、新たにこの10年分の統計データなり行事の写真等を付け加えていくものと考えております。

森田委員 以前にも、何かなさらないんですかとお尋ねしたときに申し上げましたが、今まで八尾図書館をつくるにあたっての苦労というか、ずっと携わってこられた方々のお話なんかも載せていただくと有難いと思います。図書館というのは市民のこういう思いで出来て、今も現在支えられて続いていっているという風な、そういう「思い」というのは数字では中々現れにくいと思うんです。だからそういう思いであるとか苦労されたことだとか、退職された方にはもう直接お話もお聞き出来ないと思いますが、30年の内に定年退職された方も沢山いらっしゃると思うんですが、残っておられる方の中で図書館に係わられた方のコメントなんかも載せていただくと、より一層歩みを現すのに充実したものになるかなと思うんですが、出来ましたらそういうのも考えていただけたらと思います。

石田補佐 「20年の歩み」の中で歴代館長のお名前も記載させていただいておりますが、今ご意見頂きました様に図書館もかなり古い歴史を持っておりますので、既に退職された方も多いです。平成8年、9年当たりの志紀、山本図書館が開館された当時の館長さんでしたら在職されておられる方もいらっしゃいますので、いろんなご苦労あったと思いますからそのあたりのお話でしたら伺えるかなと期待を持っておるんですが、それ以前になりますと中々難しい面もございます。ただ、ご意見いただきましたので、原則は「20年の歩み」に直近10年分の写真であるとかデータを加えながら、ご意見いただいた内容なんかも出来る限り取り入れて作成するように頑張りたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

森田委員 よろしくお願いいたします。楽しみにしております。

井上会長 30周年記念誌のことで八尾図書館初代館長の三苦さんに話をしましたら、「出来たころの経過をワシ、何周年か何かで書いたで」と仰っておられました。私は詳しくは分かりませんが何周年かの冊子に最初のその辺のことが出ているのではないかと思います。また確認しておいていただけたらと思います。

岡田係長 今仰ったのは、恐らく「八尾市立図書館10年の歩み」ではないかと思います。図書館開館から10年が経ったということで、三苦館長が開館当時の苦労とか図書館が出来るまでの経緯等を書かれたものだと思いますので、機会があればご参照いただきたいと思います。

「20年の歩み」につきましては字や表の部分がご指摘のとおり多かったですと思います。30周年記念誌につきましては、写真等を入れながら、ボランティアさんとの共同での行事等、図書館では様々な行事をしておりますので、その当時の写真等も使って、ご意見を加味しながら充実し

た紙面を作って行きたいと思います。よろしくお願ひ致します。

井上会長 他に何かございませんでしょうか。それでは事務局から連絡事項等ございますか。

石田補佐 特にございません。

井上会長 それでは、委員の皆様方には本日の協議会の議事運営にご協力いただき、また数々の貴重なご助言、ご提言いただきまして有難うございました。本日はこれで終わらせていただきます。有難うございました。

一同 有難うございました。